

日 時：平成26年4月19日 13:30～16:30

場 所：島田市役所会議棟 大会議室

参加者：公募による市民7名

## 1 市民が求める機能

- ・ 市民病院は地域の財産であり「市民」の病院であることから、新病院においても現在機能や役割を維持してほしい。
  - 二次救急医療、災害拠点病院、地域医療支援病院、政策医療（小児・感染等）、悪性新生物への対応、呼吸器系疾患（肺癌や肺炎）
  - 高度先進医療については、他の病院との機能分担により、担える範囲で対応してほしい。
  - 市民病院に全てを求めるのは無理である。市民病院にしかない機能を造ることは大事である。
- ・ 新病院には健診機能も担ってほしい。市民の健康管理の観点から健診施設は必要ではないか。巡回健診についても検討いただきたい。
- ・ 災害拠点病院としての機能を充実してほしい。
  - 玄関はトリアージスペースを確保、医療ガス等の施設整備等
  - 空港と連携することで広域災害にも対応できる機能が必要ではないか。
  - 屋上にヘリポートが必要。
- ・ 障害者に配慮した施設整備をお願いしたい。
  - 障害者用の駐車場や庇の整備、バリアフリー、ボランティア活用による利便性向上
- ・ 平均在院日数の短縮化により、入院直後から次の転院先を考えなければならないことを不満に感じている。
  - 島田市民病院で完結できる医療・担えない機能について整理してほしい。
  - 地域連携パスを実現する上で、市民病院の相談機能を充実してほしい。また、そうした機能を広報してほしい。
- ・ 市民も市民病院の医師確保が困難な状況にあることを理解している。医師が集まる病院を目指してほしい。
  - 複数医師が配置できる診療科を整備してほしい。特に研修医確保のためには指導体制の確立が不可欠なのではないか。

## 2 規模

- ・ 30年後の次の病院建替えを見据えた規模としてほしい。
  - 静岡県の医療計画や30年後の将来人口、高齢者人口を考慮してはどうか。
  - 今後の人口推計では、総人口は減少するが高齢者人口は増加する。よって患者数が増加することを考慮すべきではないか。
- ・ 近隣病院との機能連携を考慮してはどうか。
- ・ 事業費規模を考慮した規模検討をしてはどうか。
- ・ 医師をはじめとする医療従事者確保の可能性も考慮すべきではないか。
- ・ 今後、地域包括ケアシステムの構築により、在宅医療への移行が増加することが予測されるため、そうした地域医療提供のあり方も考慮してはどうか。

- ・ 個人的な意見として以下を提案する。
  - 一般病床は、360床程度（9看護単位）
  - 療養病床は、自治体立病院が持つ必要ないのではないかと。近隣他市の所在も考慮し民間に委ねてはどうか。
  - 精神病床は、6年間休止中であることから、民間に委ねてはどうか。
  - 結核病床は、他の医療圏等での整備状況を考慮し、無くしても良いのではないかと。
  - 感染症病床は、医療圏内に6床配置のため、新病院でも維持すべきではないかと。

### 3 建設場所

- ・ 新病院では高齢者や障害者に配慮し、勾配のない平地に建設してほしい。
  - 現在、藤枝は勾配があり大変で、焼津は駐車場から病院に入るのが大変である。
- ・ 利用者及び職員用の広い駐車場が整備できる場所にしてほしい。
- ・ 都市部でも良いので交通利便性を考慮した場所にしてほしい。
  - 長期入院は無いので、空気、景観、騒音などは関係ない。
- ・ 災害時対応を考慮した場所にしてほしい。
- ・ 救急車が橋の上から逃げられない、通院時に交通渋滞を引起すなど、長大橋（大井川の橋）を多く通るのは止めた方がいい。
- ・ 事業費を考慮した場所にしてほしい。
  - 現在地については、地盤改良費が発生することを考慮すべきではないかと。

### 4 その他

- ・ 市民病院への外来受診は、紹介状が無いと受診できないと考えている市民は多い。
- ・ 市民病院は在院日数が短く、早く退院するように言われる印象がある。
- ・ 玄関で、車椅子など手伝ってくれる人がいてほしい。
- ・ 環境調査の概要について、死因別死亡率は人口10万人あたりで算出した方が違いがわかる。

以 上